

## 会 議 録

### 1 会議名

平成28年度第1回上越市食育推進会議

### 2 議題（公開・非公開の別）

(1)第3次上越市食育推進計画（素案）について（公開）

### 3 開催日時

平成28年7月29日（金）午後1時30分から

### 4 開催場所

上越文化会館 大会議室

### 5 傍聴人の数

0人

### 6 非公開の理由

なし

### 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：高橋慶一、野口孝則、井上智代、品田やよい、倉石幸恵、小林毅夫、岩井文弘、松田光代、山崎喜代子、田村典夫、尾崎徹、平澤栄一、山岸マサ子、武田昌子、笹川玲子、梅田みどり、八木智学、桃澤靖、市川重隆（高橋教育部長代理）
- ・事務局：農村振興課古澤課長、栗和田副課長（食育推進担当）、健康づくり推進課田中副課長（食育推進担当）、保育課堀川副課長（食育推進担当）、農政課桐木副課長（食育推進担当）、教育総務課本間副課長（食育推進担当）、学校教育課手塚副課長（食育推進担当）、社会教育課近藤主任、農村振興課伊藤係長・内山主任

### 8 発言の内容

農村振興課伊藤係長：只今から、平成28年度上越市食育推進会議を開催いたします。本日、司会を務めます食育推進会議事務局の農村振興課・伊藤でございます。よろしくお願いいたします。

まず、議事に入ります前に、会議資料の確認をさせていただきます。

（配付資料一覧読み上げ、配付資料の確認）

お持ちにならない方は、お申し出てください。

では、会に先立ちまして当課 古澤課長の方から一言ご挨拶させていただきます。

（古澤課長あいさつ）

ありがとうございました。

続きまして、次第「2 委嘱状」の交付を行います。

お手元の委員名簿をご確認ください。

代表して名簿の先頭でございます「高橋慶一様」に委嘱状を交付いたします。

（農林水産部桃澤部長委嘱状読み上げ、手交）

ありがとうございました。

恐れ入りますが、高橋様以外の委員の皆様へは、前もってお席に委嘱状を置かせていただきましたので、ご確認をお願いいたします。

なお、任期は、平成 28 年 7 月 26 日から 2 年間となっております。よろしく申し上げます。

また、今回、委員改選があつてから初めての会議となります。次第にはございませんが、手短に皆様から自己紹介をお願いしたいと思います。名簿の上から順番に進めさせていただきたいと思います。

それでは、高橋委員の方からお願いいたします。

(委員名簿の順番で高橋委員から各委員自己紹介)

ありがとうございました。

それでは、次第「3 会長選出」であります。

本日お配りいたしました「上越市食育推進条例」をご覧ください。条例第 7 条第 4 項により「推進会議に会長を置き、委員の互選により定める」こととなっております。

会長選任に当たり、皆様からご発言をいただければと思います。

(事務局推薦案を求める声あり)

事務局推薦案としまして、会長にはこれまで 2 期 4 年間会長をお願いしました、高橋慶一委員から引き続きお願いできればと考えております。皆様、ご賛同いただけますでしょうか。

(出席委員全員の異議なしの声あり、拍手あり)

ありがとうございます。

それでは、互選により会長は高橋委員となりました。

高橋委員は、会長席へご移動をお願いします。

(高橋委員、会長席に移動)

これより議事に入りますが、これより先、議事の運営につきましては、「上越市食育推進会議規則」第 2 条第 1 項により、高橋会長から議事運営をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

高橋会長：ただ今、会長になりました高橋です。

食育というと医療の場面から考えるという傾向がありますが、食育というのはそれだけではないので、幅広く皆様のご協力を得て進めていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

それでは次第に沿って議事を進めていきたいと思っております。

次第「4 議事 (1) 第 3 次上越市食育推進計画(素案)について」、事務局から説明をお願いします。

農村振興課栗和田副課長：(資料No.1～5 を基づき説明)

高橋会長：ありがとうございました。

ただ今のご説明を受けて、意見交換に移りたいと思っております。

ここでは、第 3 次食育推進計画の素案について皆さんからのご意見を出来る限りたくさんお聞きする場にしたいと思います。

素案の構成、施策、全体について、何でも結構ですので、皆さんから

ご意見をお願いします。

岩井委員 : 4つの基本方針すべてに「おいしい」という言葉が入っていますが、テレビなどでしている、おいしいもの探しと間違えられてしまうのではないのでしょうか。

高橋会長 : この「おいしい」は意図的に使っていると思います。健康や伝統などそれぞれ意味合いが違い、一つにまとめるために使ってきたものだと思います。

岩井委員 : 過去の食育会議ではこの「おいしい」という表現に関して議論はなかったのでしょうか。

農村振興課古澤課長 : 現在資料を持ち合わせていないため、調べて、第2回の食育推進会議で報告させていただきたいと思います。

野口委員 : 資料No.4として国の第3次食育推進基本計画の概要がついていますが、例えば、2番の「多様な暮らし」というキーワードは、国としては、格差の話であったり、世代間交流ということがキーワードとなっている中で、特に食に関する知識、技術、技能または食へのアクセスの未熟な方々に対して、食環境を整備するということが大事な中での2番、そして、共食、一緒に食べるという場を作ることに関して、国では、特にあげられている中で、上越市さんの中でもう少し見える形にしてもいいのではないかと個人的には思いました。

4、5番のところで、特に上越では、大変おいしい食文化、郷土料理多数あります。大島、浦川原や名立など色々な地域のおいしい郷土料理が受け継がれなくなってしまうかもしれない。学校給食のみならず、多くの場で学ぶことのできるチャンスを作って頂きたいし、学生であったりまたは小、中、高校生であったり若い世代の方たちが学びに行けるような場をもっと見える形にさせていただければと思っております。A3用紙になるような体系図を作られたというのは、大変苦勞されたと思います。体系図を作るという事は、これを見て動きやすくなる、見えやすくなることです。

ライフステージの観点からも少し詳細を分けたというところも大きな進歩だと思います。大きな表の一番右側に基本施策が出てきますが、これはいったい誰に対して、どんなライフステージの方に対して行くものだろうかというところが見える表がもう1つ必要になってくるのではと思います。

基本施策の中でライフステージが明確に明記されている場合もありますし、一方で明記されていない場合はいったい誰が誰のためにやるのかというところが、あいまいになりがちになります。

どういう人たちが中心となって誰々のためにやるのかということ。誰がという主人公とそして誰のためにという目的対象者とが明確になっているとより市民の皆様にも動きやすく、わかりやすく、理解しやすくなるのではないかと思います。

高橋会長 : ありがとうございます。

井上（智）委員：基本方針 1 に「食べることの大切さを意識しておいしいものを楽しく食べます」と書いてありますが、指標項目を見ていくと生活習慣予防や規則正しい食生活などの評価がこの評価項目で出来ると思いましたが、楽しくというところの評価をどの辺の指標項目で評価していくのかということがわかりませんでした。どこで評価していくのかわかりましたら教えて頂けたらと思いました。

高橋会長：ありがとうございました。

農村振興課栗和田副課長：計画 27 ページに指標項目があります。基本方針 1 の「楽しく食べる」ですが、7 番と 8 番といったところで、家族、友人、地域の方などと共食、食べる回数や割合のところは「楽しく食べる」というものの指標になると考えております。

高橋会長：ありがとうございました。

井上（智）委員：食材そのものを楽しみながらという指標はありませんか。

農村振興課栗和田副課長：この素案では、その視点はないので検討して、現状値を確認しないといけませんので、アンケートで把握できるか、きちんと確認した中で指標値に入れることを検討したいと思えます。

井上（智）委員：五感で感じられる楽しみの評価指標が出てくればいいと思いました。よろしく願います。

農村振興課栗和田副課長：検討いたします。

高橋会長：ありがとうございました。

品田委員：自分で見させて頂いたときは、非常に良く網羅しているなど感じました。しかし今、井上委員のおっしゃった通り評価という面では非常に難しいと感じております。

学校の立場から言いますと、主に指導をするのは子供たちです。この分類で行きますと小、中学生になります。本日、保育園の園長先生もおられますが、家庭、親の食生活がそのまま子供にすりこんでいて、非常に偏食が多い家庭の子供はそのまま育ってきている。良く食べる子供は良く育つし、よく活動もし、健康で学力も良く、食生活が子供の成長に大きく結びついているということを実感しています。

学校教育という立場から、とってもいい食材でいい給食を提供していただいておりますので、子供たちに残さないようにその良さを伝えていく。それから、私たちの立場として、保護者の皆さんにどんどん PR していくのも大切な役割だと思いますし、ここにおられるそれぞれの立場の皆さんでどんどん PR していくことが必要かなと感じました。

行政は、市の広報などで、ぜひ PR したり、特集を組んだりして、それぞれの立場で取り組んでいくといいと感じました。

高橋会長：ありがとうございました。

倉石委員：離乳食期から始まるわけで、とてつもなくこの事業が保育園からすると大きなことで、目標とするには遠いものという感じがします。

0 才から就学前のお子さんをお迎えして、今すぐには目に見えて子供たちの変化とか、育ってきたものは何かということは、わからないですけ

どこの先この子供たちが大きくなり、大人になり親になっていくときに「食事って大事だね。食べることって大事だね。こんなおいしい物があつたね。みんなと食べたね。」とかそういう経験を保育園でたくさんさせてあげて、大事に心の奥にとめて、成長してもらいたいと思っています。

保護者の方は、とても忙しいです。朝7時30分から夜7時までお預かりしているお子さんがたくさんいて、お父さんもお母さんも食事の支度、買い物等に時間をかけられない状態が多く、せかして「コンビニによって買い物して帰ろう。」と言って帰っていきます。悲しいです。保育者として、食育に一生懸命に力を入れている保育園の職員として悲しいですが、それも現実です。ただ、子供たちは0才~2才で入園してきて、卒園までにいろいろな食材を食べ、いろいろな味を味わい、年長になりますと残す子供もいません。その4年間、5年間を大事にしていますが、今後大事にしていきたいと思っています。

高橋会長  
小林委員

：ありがとうございました。

：今回、新しく追加されて、高齢者に対する食育の推進が入りましたので、素晴らしいと思います。

2年前のこの会だと思いますが、「配偶者が亡くなられた時の男の高齢者はどうなるのか、大丈夫ですか。」という発言があつて、柳原先生という方だと思いますが、「男の人の料理教室をしておかないとだめだ。」と言われて、実際に進んだと思います。時代の進展と高齢者に対する食育ということと色々なことを考えて進めていく必要があるだろうと思います。

高齢者が自宅で野菜を作り始めて、それらを上手に活用していくことも提案していければと思いました。

高橋会長  
松田委員

：ありがとうございました。

：発酵食品というところが基本方針の中にも入っていたらいいなと感じました。

上越らしさを出してもらいたいという中でも、発酵のまち上越という事で、色々な取り組みをされているので、ぜひそちらの言葉を基本方針に入れて頂いて、発酵食品を家庭でも使っていただくような取り組みになっていったらと思います。

発酵食品というと特別なものと思われませんが、みそやしょうゆ、みりんなど普通に使われる調味料が発酵食品なので、そういうものを使っていただくところから始めてもらうといいです。

今、お忙しい家庭が多くて、なかなか調理に時間を使っていられないという家庭が多いです。お忙しい両親が多いので子供だけで食事をとるという現状が見られます。今、「こどもの食堂」というところと「シェア飯」というところを上越の取り組みとしてできないかということです。ぜひ、上越の取り組みとしてやっていただけたらと思います。

「こども食堂」は、子供が主体というだけでなく、その中で高齢者の方が自分たちにできることは何かということから始まったもので、地産

地消、郷土料理の伝承にも繋がっていくと思います。「シェア飯」というのは、上越だけでも大学や専門学校がある中で、学生の交流、大学生と高校生の交流など一緒にシェアしながら一品料理を持ち合っというところで、話が進んでいます。ぜひ、これを後押しする意味でも上越市の取り組みの中に入れていけたらと思っています。

高橋会長  
山崎委員

：ありがとうございました。

：第3次食育推進計画は、実践の輪を広げようという事になっておりますが、いろいろ市民の皆様へのPR活動について話があがったことがあったと思いますが、ホームページに載せるといっても実際に見る方は少ないと思います。特に高齢者の方は見るのが難しいと思いますので、広報などいろいろ考えてくださっていたと思います。前回、ラジオもいいという話もしたと思います。輪を広げようという事になりますとやはり市民の皆様幅広くPRしていくことが大切だと思います。広く市民の皆様色々な知識などを勉強できる場をたくさん設けていただけるといいと思います。

自分の住んでいる地区で健康推進委員をやった時に上越市の保健師さんに来てもらい地区の方々にお話をさせていただきました。そういった活動が各地区でもあると思いますので、そういった場で保健師さんにお話をさせていただくというのもPR活動に繋がるのかと感じました。

高橋会長  
田村委員

：ありがとうございました。

：たいへん細かく整理されていまして、素晴らしいと思いました。

共働きだと、おじいちゃんとおばあちゃんが子供の面倒を見るわけですが、子供も成長していくとおじいちゃんとおばあちゃんのいう事を聞かなくなります。やはり学校での活動も大切だと思います。私自身も食育について考えていきたいところですが、ぜひ、小、中学校との連携をしていただきたい。

食育の大切さをどのように一般の人に伝えていくのか。ネット的なものではなく、楽しく食育という言葉に触れていくということも強化していただきたい。

「こども食堂」ですが、とてもほのぼのとしたいい雰囲気でした。夕方、子供たちがひとりで食事をするのは大きな問題です。そこで「こども食堂」を色々な形で取り組んでいただけるといいと思いました。よろしくお願いします。

高橋会長  
尾崎委員

：ありがとうございました。

：十数年前、学校給食で地産地消を取り入れながら、地元の魚を手配した中で、脂もそっけもないサケを学校給食の方に魚屋さんを通して、切り身にして納入していた時期がありました。今は、どうしているのかわかりませんが、脂ものっていない魚を子供に食べさせるのかと考えてしまうことが過去にありました。いろいろ給食関係の食品紹介をしましたが、子供ののどに骨が刺さってはいけないという事もわかりますが、全部骨をとった魚が中心です。子供が大きくなったときに魚を買いに行

くことがあります、骨がついています。塩焼も骨があるから食べない、というふうな感じが現状です。学校給食としては、非常に難しいと思いますが、一般の家庭でもっと骨がついている魚の骨をとりながら食べてもらえたらいいのではないかと思います。

高橋会長  
平澤委員

：ありがとうございました。

：おいしく楽しくのみを強調しているキャッチコピーを変えた方がいい気がします。実際に、給食費も払えない小学生が出てきていることや社会全体が食について毎日考えながら生活している家庭が少なくなっているのではないかという気がします。そういう意味でも変えた方がいいかなと思いました。

食料を生産するのは、意外とまだまだ大変です。しかも、TPPだとか後継者がいないとか、食を生産する農家が激減している、農家が今、壊滅の方向に向かっているなど、そういうことも食の問題として、地域で考えなくてはならないのではないかと少し感じました。

高橋会長  
山岸委員

：ありがとうございました。

：計画表の若者、青年期の方に普及する方法がなかなかないので、その辺をもう少し重点的に考えて頂ければいいと思います。

あるるん畑などに野菜を出荷して、若い方にどうやって野菜を食べて頂くかとイベントをするたびに考えて、若い方の目を引くようにと普段からも買い物に来ていただけるようにやっていますが、なかなか大変です。小学校や保育園、幼稚園の学童期などは書いてありますが、高校については、やはり県立なので市としては関わらないのでしょうか。高校生などに出向いて何かをするという事を考えて頂けたらいいのかなと感じました。今、普及するなら高校生をねらったらどうかと思いました。

高橋会長  
武田委員

：ありがとうございました。

：食生活改善推進委員の仕事といたしまして、市の健康診査をした後の結果報告の時に1日の食品展示を来た方にします。そうすると、「たったこれだけか。」という言葉が第一声です。いかに食べ物が豊富にあるか。過食で糖尿病、コレステロールが高いのがわかります。肉も魚も1日これくらいです。バランスよく食べなさい。いかに1日の食品展示をしても過食に走っているのか、皆さんの健康管理も過食から来ているのではないかと思います。

高橋会長  
笹川委員

：ありがとうございました。

：やはり一番興味がなさそうなのが、青年期の方だと思います。

ステージを細かく分けて、施策をこのような方向にしていこうという動きはよくわかりますけど、母親を教育することや学校教育の中でしていただくと一番いい事です。こういうことは、いっぺんに変わっていくものではなくて、学生だった子供が青年期に入ってくるわけですから、学校では大変かもしれませんがその時期での教育が身に染みて大事なかなと思います。

なかなか青年期の働き盛りの方は、話を聞くことがないと思いますので、こういう人たちに広く啓蒙できたらいいのかなと思います。

高橋会長  
梅田委員

：ありがとうございました。

：全体を見させていただいたときに、すごく遠い目標に向かっていているような感じがして、雲をつかむような感じがしています。

食べることは、日々違いますし、1日の間でも同じことではないと思います。旬のものもどんどん変わっていきますし、生活の環境も変わっていきますし、年齢もどんどん重ねていきます。それでも食べることが、基本となって、その積み重ねで体が作られて、心が作られて、人間が成長していくと思います。どこから手を付けていいのか。親世代なのか、小さな子供からなのかということはずごく難しい問題だと思います。

私を感じたことは、食べることも食べたいと思うことも、それからおいしいと思うことも楽しいと思うこともやはり感情です。見えないことでもありますので、このようにアンケートをとられて、数字で見えるところは、本当に目に見える現実の行動みたいなところしか数字ではあらわれないのではないかと思います。もう少し、料理をするのが楽しいとか、家族みんなで食べるのが楽しいとか、でも一人で食べても楽しい時もあると思います。だから、おいしいとか楽しいとかという感情のようなものが、もしこの中に盛り込んでいただければ、感覚的なことなど目に見えないもので表現しづらいかもかもしれませんが、そのような感覚的なものを盛り込んでいただいたりして、実際に指標となるのかわかりませんが、そういうことが食に関しては大きなものを占めるのではないかと思います。

高橋会長

：ありがとうございました。

健康福祉部八木部長：それぞれのライフステージに応じた健康寿命の延伸、健康格差の縮小ということで取り組んでいきます。

大学生の皆さんの食生活が乱れていて、就職してもなかなか健康診査も受けられていない状況もわかってきました。今年、働き盛りの方々の健康に着目いたしまして、各町内等に出向いて健康講座等の開催もしておりますので、お声掛けいただければなと思っています。

まず、市民の皆様にご自分の健康に興味を持っていただくこと。そのためには、口から食するものなので、どうしても生活習慣病については、食品が大きな影響を与えるという事もわかっております。食と健康づくりが密接に関係しているという事で、今後も庁内各課連携しながら事業を進めていかなければならないと思っています。また、高齢者あるいは「こども食堂」という話も出ましたが、高齢者に対しては、通いの場としてサロンをやっています。ある地域では、食事を作っているところもありますので、「こども食堂」もゆくゆくは高齢者と子供たち、あるいは障害者の皆さん、お母さん方も一同に会するような場があって、そこで料理を作って一緒に食べるというような居場所づくりができればいいのかなというふうに思っております。



高橋会長 : ありがとうございます。

農林水産部桃澤部長 : 貴重なご意見をたくさんいただきありがとうございます。

本日、いただいた意見をまとめ、第2回の会議に向けて内容を見直させていたいただきたいと思います。

食の安全性の確保のところで農林水産物への放射線物質に関する情報の提供について、前回の計画は大震災の翌年に作られたという事で、入っていると思いますが、放射線物質の検査の体制が整えられておりまして、現在では、放射線物質が検出されるようなことがあれば、その時点で流通がストップされますので、特に改めて食育の中で放射線物質に関する情報提供ということで、掲げなくてもよいのではないかと。支障がなければこの放射線物質に関する情報の提供は、外させていただきたいと思います。

高橋会長 : ありがとうございます。

教育総務課市川課長 : 各委員さんがおっしゃったとおり、まさに食というのは、ただ単に学校給食などの食の提供のみならず、身体を育成するというのも大事なことです。「心」この部分での食育というのは、本当に大切なことです。市民目線で皆様方が考えていらっしゃることを改めて認識させていただいたところです。

今回、それぞれのライフステージにあわせた食の対応の在り方ということで、整理されているという事務局提案もありました。

食というのは、実際に食べて口にしたものや青年期に食べたもの、家庭で味わったもの、一人暮らしを始めた時に食べたもの、結婚をした時に食べたものということで、個人の人生にも影響を与えるという話だと思います。そういう面では、小さい頃、教育の現場で、食という物をどう扱っていくかということについては、非常にその人の人生にも影響を与えるかなと感じていました。ただ、行政としては、事務局側に寄り添う部分もあります。しっかりとここで事務局の方からお話があると思いますが、食育の会議で皆様から頂いた意見が的確に計画に反映され、それをしっかりと市の組織として、実現していくことがより重要な役割だということを改めて認識したところです。

高橋会長 : ありがとうございます。

意見交換を終了させていただきます。

それでは進行を事務局にお返しします。

農村振興課伊藤係長 : 会長、ありがとうございます。

皆様方におかれましては、大変貴重なご意見を賜り、ありがとうございます。

基本方針など私ども課内でも議論した経緯がございます、過去の状況も調べまして、また検討させていただきたいと思います。

様々なご意見を頂戴しましたので、よりよいものにしたいと思います。また、次回に向けて、修正をさせて頂き、提示させていただきたいと思います。

それでは、次第「5 その他」ですが、皆様から何かございますか。  
なければ、事務局よりご連絡させていただきます。

本日お配りしました「上越市食料・農業・農村基本計画」の概要版につきまして、農政課より情報提供をさせていただきます。

農政課桐木副課長：（「上越市食料・農業・農村基本計画」の概要版 情報提供の説明）

農村振興課伊藤係長：ありがとうございました。

（「上越産えだまめキャンペーン」チラシ配布・説明）

情報提供は、以上です。その他、皆様何かございませんでしょうか。

本日、お集まりの委員の皆様方には、長時間に渡り貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、「平成 28 年度第 1 回上越市食育推進会議」を終了いたします。

本日はありがとうございました。

## 9 問合せ先

農林水産部農村振興課

TEL：025-526-5111（内線1276）

E-mail：nousonshinkou@city.joetsu.lg.jp

## 10 その他

別添の会議資料も合わせてご覧ください。